



「泣不動縁起絵巻」狩野永納筆 京都市 清浄華院蔵



「暁斎百鬼畫談 全」河鍋暁斎画 当館蔵

## 目次

① 展示紹介 特別展「妖怪見聞」

② 収蔵資料紹介

水藩名士肖像図巻

小学校所蔵教育関係資料

③ トピックス

## 特別展 「妖怪見聞」

平成23年10月15日（土）～11月27日（日）



「泣不動縁起絵巻」狩野永納筆 京都市 清浄華院蔵

もののけ、あやかし、魑魅魍魎、異形のもの…いろいろな呼び方をされてきた妖怪たち。妖怪の伝承は人々の暮らしの中で、ごく自然なかたちで語り継がれてきました。自然と密接な関係を持って暮らしていた人々は、人知を超えた自然災害や日々の生活の中で説明のつかない現象に遭遇して不安な気持ちや恐怖心かられたときには、昔から語り伝えられてきた妖怪が不思議な出来事や災厄をひき起こしているのではないかと考えました。禍をもたらす妖怪を恐れ、忌避するために祀ったり、あるいは退治するという観念も生まれました。しかし、妖怪はただ忌み嫌われるだけの存在ではなく、時には信仰の対象ともなり祀られてもきました。

本展示では、日本の妖怪のイメージに影響を与えた文献や絵画を通して、人々の生活の中に姿を現した妖怪の歴史について探っていきます。また、山や海、河川に棲息するという鬼・人魚・河童・天狗にスポットをあて、それぞれの妖怪が出没した記録文献や記述されている妖怪の特徴、図像化された姿を紹介するとともに、日本の歴史や生活の中で人間がどのように妖怪を生み出し存在させてきたかについて探っていきます。さらに、茨城県内に残る伝説や民話、祭りや行事に登場する妖怪を取り上げ、時代とともに語り伝えられてきた人間と妖怪との関わりについても探っていきます。以下、主な内容を紹介します。

### 第1章 妖怪あらわる！…イメージされた妖怪の歴史…

自然がもたらす脅威に直面してきた人々は、自然の中に妖怪を見出し、文化が発達して器物が身近なものになると、その器物が妖怪化するという幻想を生み出し、社会や人間関係のしがらみに苦しむことが多くなると、人間の恨み・ねたみに関わる妖怪を繁殖させてきました。長い歴史の中で、これらの妖怪が語り継がれていくうちに、さまざまな妖怪に具体的な姿を与えたり、名前をつけてきたことで人々の間には共通の妖怪イメージが成立してきました。

ここでは、日本の妖怪のイメージに影響を与えた文献や絵画を通して、人々の生活の中に姿を現した妖怪の歴史について探っていきます。

## 第2章 妖怪出沒す！…伝承された妖怪の蹊跡…

古くから妖怪たちが棲息する場所は、人間の暮らす現実世界と隔絶したところとは考えられていませんでした。人間の生活空間から離れてはいますが、人跡未踏ではない山や海など、人間が踏み入ることができる自然と文化の中間領域、あるいは人間の生活空間周縁部に妖怪たちが棲息する場があるといわれてきました。また、異界と人間の生活空間とが接する不安定な「境界」に妖怪たちが潜んでいるともいわれ、その空間の向こうから妖怪たちがやって来て怪異に遭遇したという伝承も数多く残されています。

ここでは、全国的にも知られている山や海、河川に棲息するという鬼・人魚・河童・天狗にスポットをあて、それぞれの妖怪が出没した記録文献やその内容に記述されている妖怪の特徴、図像化された姿を紹介します。

## 第3章 いばらきに棲む妖怪…茨城の伝承にみる妖怪…

太古の昔より豊かな自然に恵まれた茨城は、奈良時代に編纂された『常陸国風土記』の中で「常世の国」と紹介されています。豊穰と生命力に充ちた理想郷といわれるところに暮らしてきた人々も、自然のなかに起こるさまざまな出来事や現象に精霊・霊魂といったモノの気配（モノノケ）を感じ、禍をもたらしモノは妖怪として恐れ、忌避するために祀ったり、あるいは退治するという観念を生じてきました。しかし、語り継がれてきた妖怪は、忌み嫌われるだけの存在ではなく、人間との関わりの中で信仰の対象ともなり、時には神の使い役や妖怪でありながら神ともなる不思議な存在となっています。

ここでは、茨城県内に残る伝説や民話、祭りや行事に登場する妖怪を取り上げ、時代とともに語り伝えられてきた人間と妖怪との関わりについて探っていきます。

## 終章 妖怪と幽霊…定義された異界のモノたち…

妖怪と幽霊は同じものと考えられていたり、妖怪と幽霊は違うものとも考えられていたりしていますが、一般的に日本の妖怪は、動物や草木が化けたものや人間が作り出した物が古びて変化したものといわれており、それに対して幽霊は、死んだ人間があたかも生きているかのように人間に似た姿で、あの世から立ち返ってきたものといわれています。しかし、このように妖怪と幽霊の区分がなされたのは明治以降のことで、それまで異形のモノ（天怪、魍魎魍魎、怨霊、物の怪、幽霊など）はすべて「ばけもの」と呼ばれていました。

ここでは、妖怪と幽霊について学術的、民俗的見解の一端を紹介するとともに、さまざまに定義されてきた異界のモノたちの概念について考えていきます。



「酒呑童子絵巻」巻6 茨城県立歴史館(一橋徳川家記念室)蔵

◇講演会

演題 「人間と妖怪の関わりを通して妖怪存在の意義を考える」

日時 平成23年11月6日（日）午後1時30分～3時30分

会場 茨城県立歴史館 講堂（要入館券）

講師 小松 和彦氏（国際日本文化研究センター教授）

定員 200名（先着順）＊午前9時30分から総合案内所で整理券を配布する

◇ミニ講座・展示会説

日時 平成23年10月22日（土）・29日（土）・11月19日（土）

各日午前11時，午後1時30分，各回約30分間

会場 茨城県立歴史館 講堂及び展示室（要入館券）

担当 首席研究員 飯塚 信久

◇妖怪映画鑑賞会

題名 「妖怪百物語」

日時 平成23年10月23日（日）午後2時～3時20分

会場 茨城県立歴史館 講堂

定員 200名（先着順）＊午前9時30分から総合案内所で整理券を配布する

◇妖怪かるたで遊ぼう！

日時 平成23年10月30日（日）午後1時30分～3時（午後2時30分まで受付）

会場 茨城県立歴史館 講堂

◇妖怪を探そう！ウォークラリー

日時 平成23年11月20日（日）午後1時30分～3時30分（午後2時30分まで受付）

会場 茨城県立歴史館内及び庭園

## 水藩名士肖像図巻



藤田東湖



武田耕雲斎



結城寅寿



佐藤一齋

「水藩名士肖像図巻」は、水戸藩9代藩主徳川齊昭にゆかりのある人物29名の肖像を収めたものです。同じように齊昭ゆかりの藩士を描いたものに齊昭が編さんさせた事典『諸物会要』（公益財団法人徳川ミュージアム所蔵）、「水藩人物肖像」（国立国会図書館蔵。31名の像を収める）がなどがあります。

また、描かれた人数は少ないですが、同じ構図のものとして、武田耕雲斎ら7人の肖像（水戸藩儒者青山延寿旧蔵・本館所蔵）、同じく「三田真像」と称する武田・藤田・戸田の3人を並べた卷子本（武田家蔵）がなどがあります。

さて、「水藩名士肖像図巻」「諸物会要」「水藩人物肖像」は、それぞれ30名前後の肖像を収めていますが、描かれている人物は必ずしも一致したものではなく、この3点を合わせるとのべ44名に及んでいます。また、人物の順番も異なり、たとえば上位3人は「名士」が「藤田東湖・武田耕雲斎・山口頼母」、「諸物」は「藤田主書・近藤儀太夫・小宮山次郎右衛門」、「人物」は「藤田東湖・川瀬七郎衛門・原田兵介」となっています。

これらの原本とみられる「諸物会要」を描いた内藤業昌（寛政5年〈1793〉～嘉永5年〈1852〉）は、齊昭のもとで歩行頭、進物番頭、馬廻頭、10代藩主慶篤のもとで側用人、若年寄と累進しました。齊昭からは当初信頼を得ていたのですが、のちに「姦徒」とされ厳しい批判を浴びています。

かなり写実的に描かれていますが、これにはある方法があったと思われます。その方法は、来年2月からの特別展「肖像画の魅力—歴史を見つめた眼差し—」のなかで紹介する予定です。

## 「小学校所蔵教育関係資料」

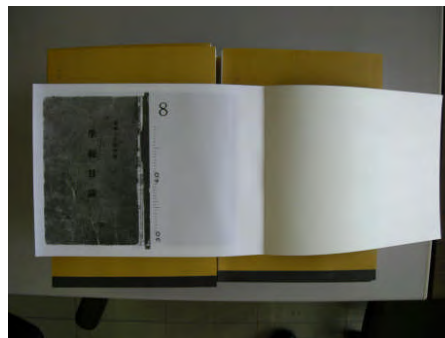
平成22年(2010)5月現在、茨城県内には約570の小学校があります。もっとも古い小学校の創立は、明治5年(1872)の学制頒布にさかのぼりますから、今から140年も前のこととなります。

平成の市町村合併が一段落し、本県は、現在32市10町2村の合計44市町村から成り立っていますが、明治22年(1889)4月に市町村制が敷かれた時には、県内唯一の市であった水戸市をはじめとして、575の町や村がありました。「おらが村(町)のおらが学校」と例えられたように、一つの村(町)に一つの小学校があり、地域の行政センターとしての役割も担っていたのです。多くの小学校は、校名に当時の村(町)の名前を今に伝えます。そのため、小学校が所蔵し、現在に引き継がれた資料は、地域に関する貴重な歴史資料といえるのです。

茨城県立歴史館では、これらを調査・収集し、保存するとともに、一般に公開することは重要な責務であると考え、平成7年度(1995)から各小学校が所蔵する資料を借用し、マイクロフィルム撮影という形で収集し、順次写真版を作成し、閲覧・公開する事業を行っています。



マイクロフィルム



写真版

収集の対象とする資料は、[資料1 調査・収集の対象とする教育資料](#) (91KB) のとおりです。昨年度までの16年間に、約2千点の資料を借用し、マイクロフィルムで約20万コマ分の撮影を行いました。これまでの実績と今後の課題については、[資料2 教育資料収集実績及び計画](#) (192KB) をご覧ください。

収集は、概ね市町村を単位として実施しています。対象市町村の教育委員会を通じて、各学校に対し、収集への協力をお願いし、具体的な訪問日時を決めます。学校を訪問し、校長先生立ち会いの下で資料を調査させていただき、対象と蔵資料についてはおよそ1ヶ月程度借用し、マイクロフィルムへの撮影を行います。平成23年度はつくば市を対象としておりますが、市域が広く、小学校数も37を数えるため、3年計画で進める方針です。本年度はその2年目となります。

これまでの状況を示した地図が、[資料3 教育資料収集進捗状況図](#) (1.96MB) となります。

次に、収集した資料群の概略を述べ、そのうち特徴的な資料の写真を下に掲載します。また、一部を抜粋して解説したものを[資料4](#)～[資料11](#)に紹介します。

### 1 学校沿革誌

学校沿革誌は、卒業証書授与台帳、例規通牒及び重要報告綴等とともに、必要な表簿とされており、全ての学校で保管されています。

茨城県では、明治10年(1877)8月23日付けの布達乙第132号で、「今般教育事務別冊之通改正并増補候條此旨布達候事」とあり、その中に「学校沿革誌編輯ノ儀」の項目が掲げられました。それによれば、「公立学校にあっては必ず沿革誌並びに日誌を備えよ。沿革誌は明治10年12月迄の分を1冊とし、その後は5年ごとに編

集し県庁へ提出せよ。」と定められました。

**資料4**として、「設置廃止設備」を記した北茨城市立平潟小学校の学校沿革誌を掲載します。

## 2 学校日誌

「学校日誌」は日々の教育活動を記録した資料ですが、上にあるとおり、そもそもは学校沿革誌の編纂資料としての性格を持っていたようです。児童の在籍数・出欠、教員の動静、行事・式典等、学校事故・災害・伝染病流行等の状況が明らかになります。時には社会の大きな動きも記録されています。

現行の規程で、保存期間が5年と定められており、年限が到来したものは廃棄されることが多く、近年のものはもちろん、明治・大正期の学校日誌が残る例も極めて少ないです。**資料5**として、[関東大震災直後の記録（写真2）](#)が残る、常陸太田市立幸久小学校の[「大正12年度校務日誌」（写真1）](#)を紹介します。

## 3 郷土誌

郷土誌は、郷土理解及び郷土教育の推進を目的に編さんされた地域資料です。これらが学校に残されているのは、編さん者が教員だったからと考えられます。本館が収集した最も古い郷土誌の作成時期は明治14年ですが、多くは大正期から昭和期初頭に編さんされています。この理由は、地方改良運動に伴う国民教化運動において、郷土教育が着目されたことが契機であります。

内容は、総論として位置・気候等に始まり、沿革、行政区域、公共施設、教育、産業、土木、衛生、財産、財政、貯蓄などが記述され、非常に詳細です。当時の町村の実態を把握することができる貴重な資料であります。

今回は、**資料6**として、日立町（現在の日立市の一部）の郷土誌を紹介します。もともとは日立市立大雄院小学校が所蔵していた資料で、同校が日立鉱山の衰退と共に閉校となり、日立市立宮田小学校に引き継がれたものです。

## 4 その他

- (1) 敗戦直後の軍国主義者・国家主義者の調査に関する件  
常陸太田市立小里小学校に残る、**資料7**「連合軍指令等綴」より抜粋
- (2) 脱脂粉乳を利用した給食の一例  
常陸大宮市立緒川小学校に残された、**資料8**「給食関係公文書綴 小瀬第一小学校」より抜粋
- (3) 本校給食の経過  
昭和37年に編修された資料ですが、学校給食草創期の苦労がしのばれる記述が残されています。常陸太田市立西小沢小学校に残る、**資料9**「学校給食沿革誌（昭和37年10月起）」より抜粋  
（参考）原資料を当館が所蔵する、**資料11**「昭和27年度給食日誌」（水戸市立三の丸小学校より寄贈）も掲載しました。
- (4) 那珂川の氾濫について  
昭和13年（1938）6月、9月の氾濫の状況、[御真影奉遷（写真4）](#)、伝染病予防について ひたちなか市立枝川小学校所蔵、**資料10 I～V**「[水害状況並諸調査 川田尋常高等小学校](#)」（[写真3](#)）より抜粋  
[資料4～資料11](#)（330KB） \*左をクリックすると、資料を解読したものが表示されます。

これまで述べたことは、当館の文書館（アーカイブズ）機能の一例であります。これら以外にも、約2万5千点の行政文書、約6万5千点の行政刊行物や議会刊行物などを所蔵し、公開を行っております。これらは当館で閲覧できますので、ぜひご利用下さい。

（行政資料課首席研究員 富田 任）

\* リンクを用いて掲載した資料は、平成23年6月4日の「歴史教室」で配布したものです。





# トピックス

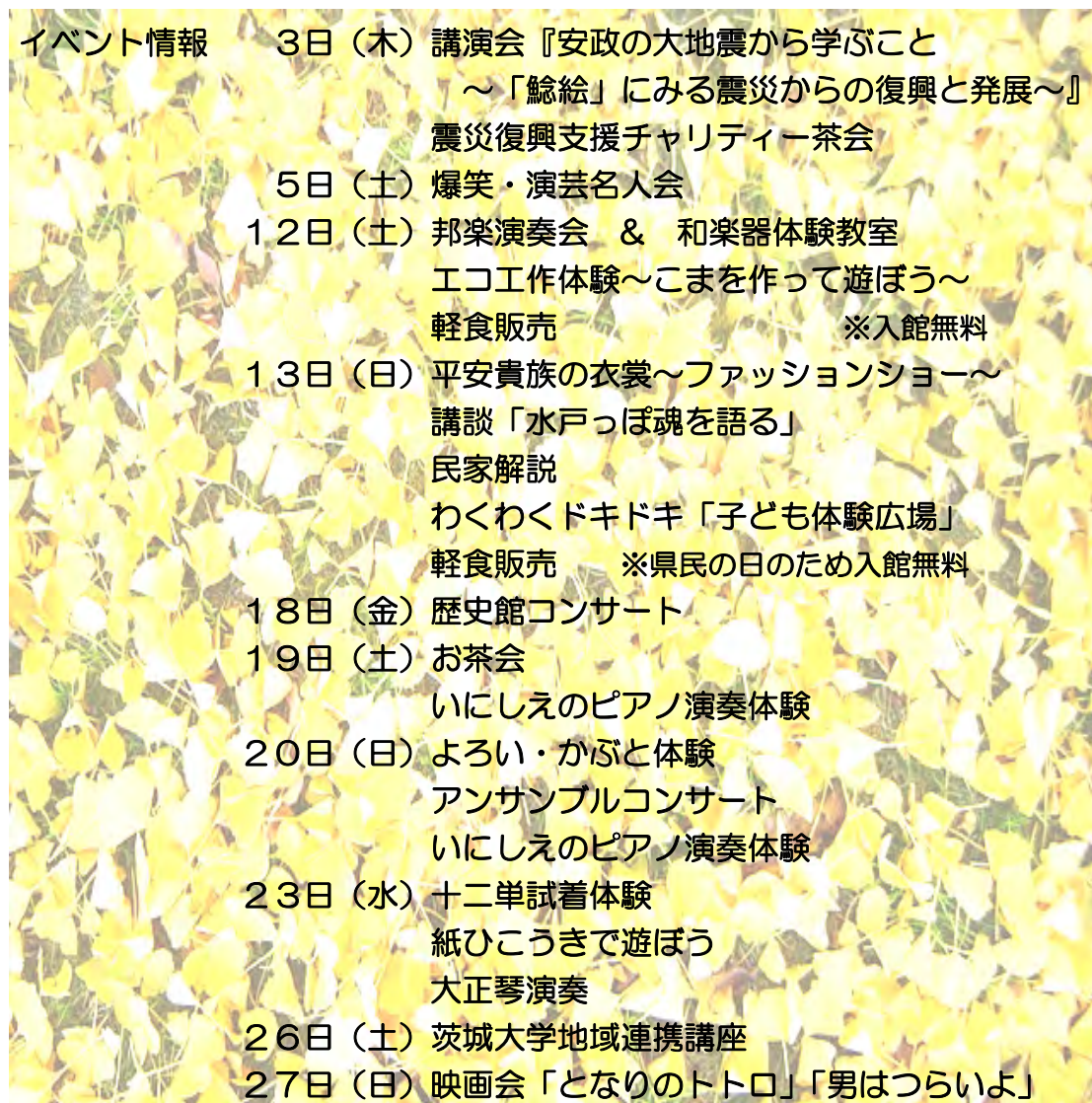
今年3月11日には、未曾有の東日本大震災におそわれました。  
この度の震災により亡くなられた方々に心からご冥福をお祈り申し上げます。  
また、被災された方々やそのご家族に対しまして、心からお見舞い申し上げますとともに、  
一日も早い復興、復旧をお祈り申し上げます。

歴史館では、建物等の損傷もほぼ復旧し、お陰様で4月23日から開館しております。  
皆様の心に、文化と歴史の風をお送りできましたら幸いです。  
今後とも当館をよろしくお願い申し上げます。

## 秋の注目行事

### 歴史館いちようまつりー「和の文化」の祭典ー

平成23年11月3日（木）～27日（日）



イベント情報	3日（木）講演会『安政の大地震から学ぶこと ～「鯨絵」にみる震災からの復興と発展～』 震災復興支援チャリティー茶会
	5日（土）爆笑・演芸名人会
	12日（土）邦楽演奏会 & 和楽器体験教室 エコ工作体験～こまを作って遊ぼう～ 軽食販売 ※入館無料
	13日（日）平安貴族の衣裳～ファッションショー～ 講談「水戸っぼ魂を語る」 民家解説 わくわくドキドキ「子ども体験広場」 軽食販売 ※県民の日のため入館無料
	18日（金）歴史館コンサート
	19日（土）お茶会 いにしへのピアノ演奏体験
	20日（日）よろい・かぶと体験 アンサンブルコンサート いにしへのピアノ演奏体験
	23日（水）十二単試着体験 紙ひこうきで遊ぼう 大正琴演奏
	26日（土）茨城大学地域連携講座
	27日（日）映画会「となりのトトロ」「男はつらいよ」

## 平成23年度 上半期の行事から

民家解説 5月3日(火)・8月21日(日)



旧茂木家住宅は約300年前の農家建築で、茨城県の指定文化財になっています。当館の研究員が、外観だけでなく内部についても説明し、見学者からは「大地震の揺れにも耐えたんだ」と感心される方や柱の手斧で削った跡を熱心に見ている方もいらっしゃいました。

次回は、11月13日(日)に開催します。

よろい・かぶと体験 5月5日(木)・8月21日(日)



子どもたちは、歴史館ボランティアの方々の手伝ってもらいながら、伊達政宗モデルと山本勘助モデルのよろいやかぶとを身につけました。中には、黒い眼帯を持参し、伊達政宗や山本勘助になりきっている子どももいました。

子どもたちからは「戦国武将に興味があったので着てみたかったです」、「よろい、かっこいいよ」「肩が重いよ」などという声がありました。

次回は、11月20日(日)に開催します。

歴史館コンサート ―ヘルマンハープと小さなお話― 6月12日(日)



震災の影響により、第1回歴史館コンサートが中止となったため、特別コンサートを当館講堂で行いました。

当日は、島村敦子氏によるドイツ生まれのヘルマンハープの優しい音色に心落ち着かせ、語りの声に耳を澄ました。最後に参加者は、演奏者と

語り合いながら、ヘルマンハープを実際に体験しました。「優しい楽器ですね」「もっと普及してください」などの声が聞かれました。

次回の歴史館コンサートは、11月18日(金)に開催します。

## 古文書解読講座 6月12日(日)・18日(土)



参加者は、古文書の基礎から学び、更には、実際に古文書を当館首席研究員とともに読み解きました。

受講者が、熱心に解読されている姿が印象的でした。

参加者からは、「昔の人々のやりとりがよくわかった」「文字のくずし方を丁寧に解説していただいた」「次回も是非参加したい」などの感想がありました。

## 歴史館探検ツアー 6月19日(日)

参加した小学生は、機械室や考古資料収蔵庫、文書整理保管庫、大きな展示ケースなどを移動する際に使うエレベーターなど普段見ることのできない歴史館の裏側を探検しました。その後、縄文土器などを



観察し、ミニチュアの土器づくりを体験しました。

子どもたちからは、「大きなエレベーターに乗ったのが面白かった」「とても楽しかったので、また探検ツアーに参加したいです」などの感想が聞かれました。

次回は、12月18日(日)に開催します。

## 小・中学生のための考古学講座 7月31日(日)



参加した子どもたちは、まず、当館研究員の説明を聞きながら、常設展示にある土偶や土器、埴輪などを見学しました。その後、石棒や土偶(ともに実物)や銅鐸(復元)に触れ、古代の祈りの様子を想像したり、土器の模様を写し取る作業(拓本)を体験したりしました。

参加者からは、「(石棒を持ちながら)どうやってこんなに滑らかにしたのかな」「(拓本づくりをしながら)きれいな(土器の)模様でできた」と目を輝かせて話す姿がありました。

## 歴史館まつり 8月20日(土)・21日(日)

このイベントは、多くの方に歴史館に親しんでいただくことを目的に毎年この時期に開催しています。今年度は2日間にわたって行いました。



日曜日は小雨の中でしたが、約 3000 人の方が参加し、盛況でした。

歴史館内をまわるウォークラリーは、雨の中、傘を差しながら家族や友達とポイントを探し、問題を解く姿がありました。「結城紬の実演・体験」では、楽しそうに機織りや糸つむぎを行う姿がありました。また、歴史講演会では「塚原ト伝とその時代」をテーマに塚原ト伝の生涯やト伝の残した古文書についての紹介があり、参加者は熱心に耳を傾けていました。その他にも、新荘小学校管楽合奏部ミニコンサート、勾玉づくり、農産物の販売などが行われ、多数の参加者で賑わいました。

各行事についてのお問い合わせは、

茨城県立歴史館 教育普及課 電話029-225-4425

または、ホームページの「お問い合わせ」からメールをお送りください。